

高松市の地域経済分析について

2024年

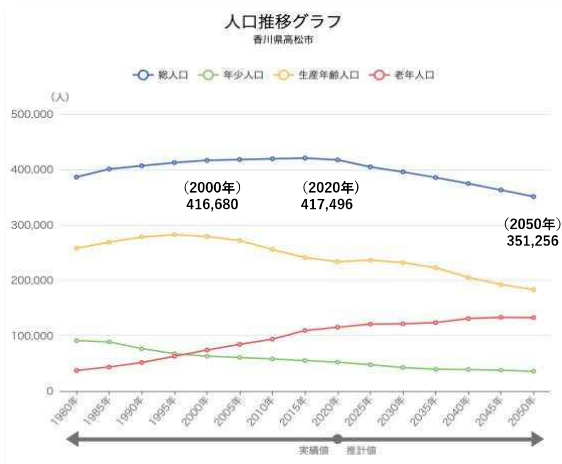
<https://resas.go.jp>



人口

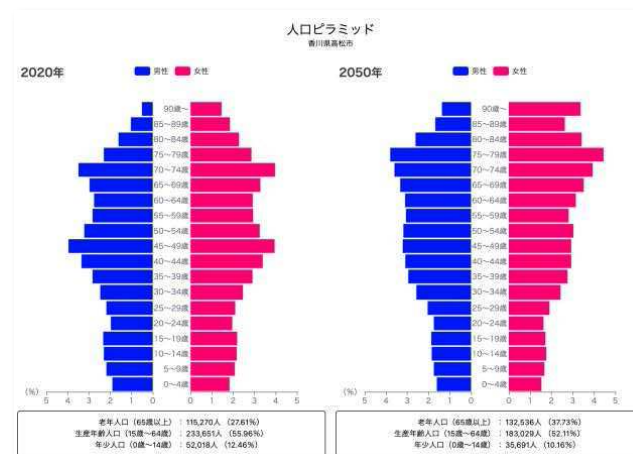
- 2020年の人口は総人口417,496人。20年前（2000年）の416,680人に対して微増していると言える。年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。事業者は、少子高齢化の進行に対応したビジネスモデルの再構築が必要といえる。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。
- 人口ピラミッドは、現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。老年人口の割合をみると、2020年の27.61%から2050年には37.73%まで上昇する見込み。一方、生産年齢人口は2020年の55.96%から52.11%まで低下する見込みであり、労働力不足、消費の縮小などが予測される。
- 滞在人口は昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。平日休日、昼間夜間共に滞在人口の変動がほぼないことから、市民の行動は平日高松市で仕事・学業を行い、休日も市内で過ごしていることが読み取れる。

年齢別人口推移



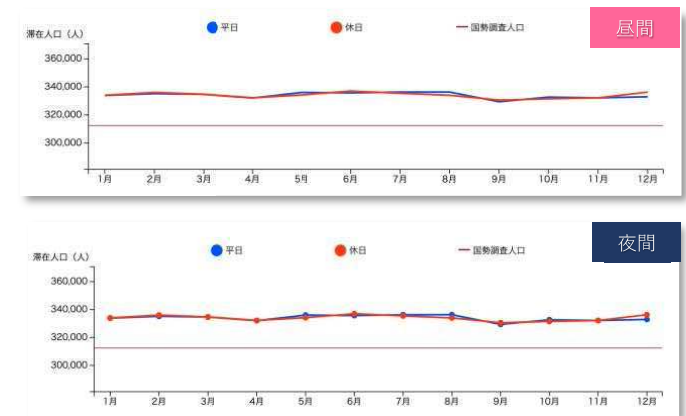
* 人口マップ→人口構成→人口推移

人口ピラミッド



* 人口マップ→人口構成→人口ピラミッド

滞在人口 (2022年、上: 昼間、下: 夜間)



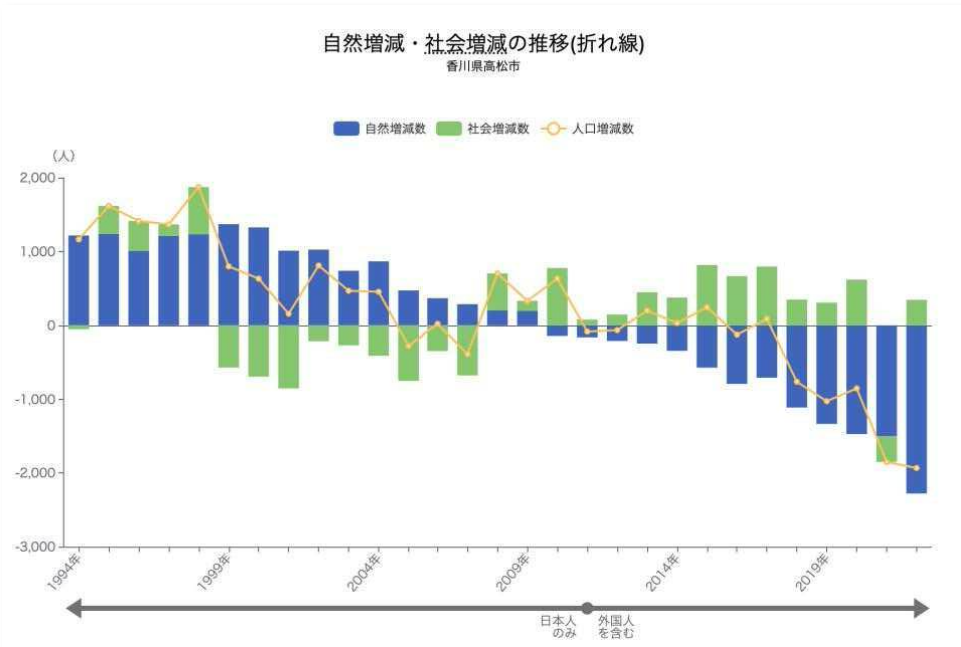
* まちづくりマップ→滞在人口率

※昼間は14時、夜間は20時のデータ

人口増減の要因

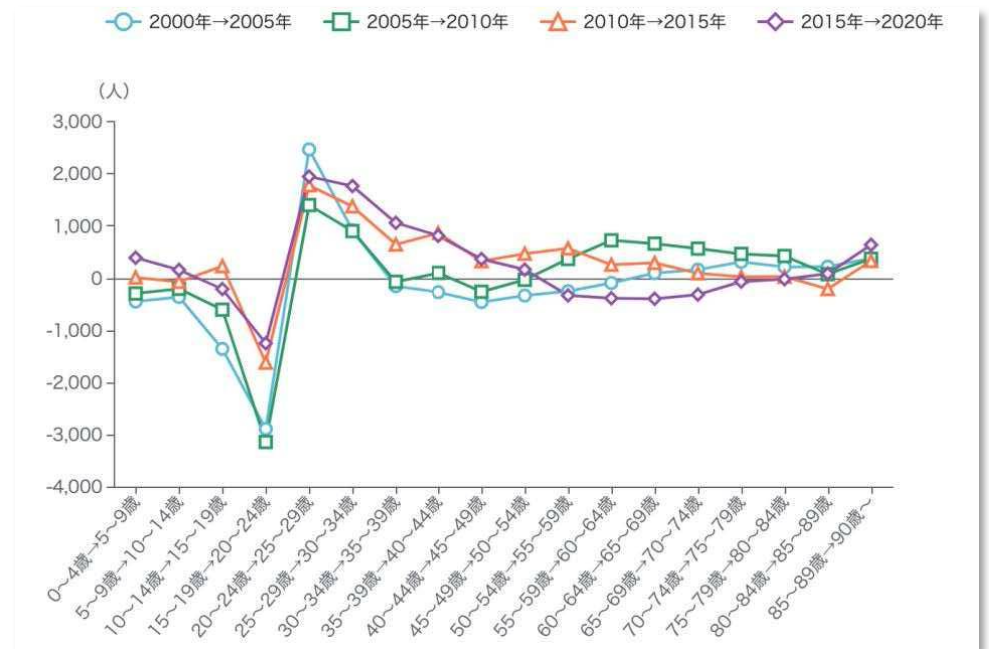
- 近年は、2008年以降、社会増しているが、自然減が加速化しているため、人口増減数全体としては減少している。
- 年齢階級別純移動数の時系列推移については、主に大学進学時、就職時（15～19歳→20～24歳）のタイミングで人口が大きく流出後、20代後半（20～24歳→25～29歳）で人口が増える。その後は年代ごとに増減の波はあるが、大きな流れとしては横ばいの傾向がみられる。また、2010年以降、就職時（15～19歳→20～24歳）の流出数が減少している。

自然増減・社会増減の推移



* 人口マップ→人口増減

年齢階級別純移動数の時系列推移



* 人口マップ→人口の社会増減

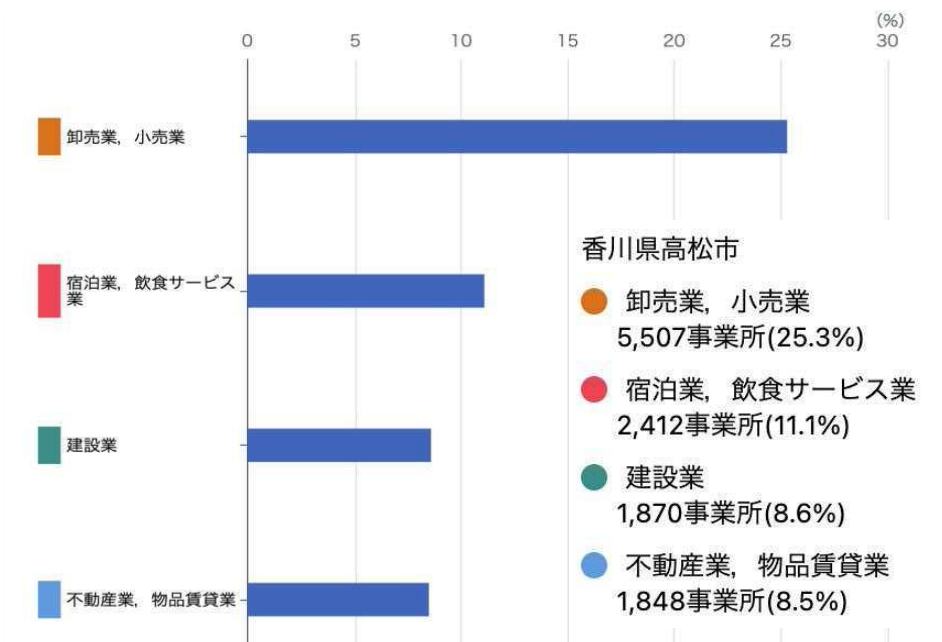
【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

産業構造 < 事業所数 >

- 業種ごとの事業所数を示したグラフをみる。
もっとも多いのは「卸売業、小売業」の5,507事業所で、全体の25.3%を占めている。
その後「宿泊業、飲食サービス業」の2,412事業所11.1%、「建設業」の1,870事業所8.6%が続く。
- 事業所数の推移を示したグラフをみる。
2021年は21,763事業所。9年前の2012年と比較すると22,192事業所だったので1.9%減である。

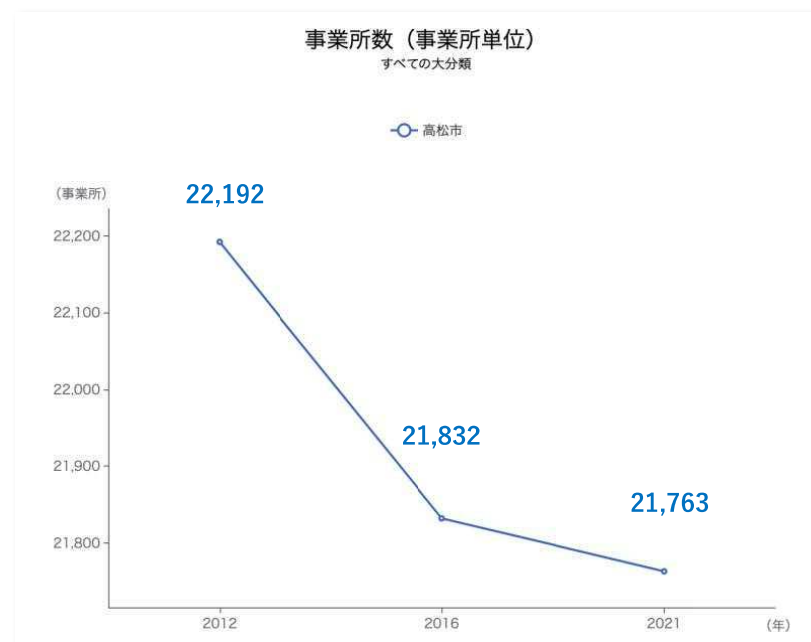
事業所数（事業所単位）大分類（2021年）

事業所数（事業所単位）：21,763事業所



* 産業構造マップ→全産業→全産業の構造

事業所数の推移



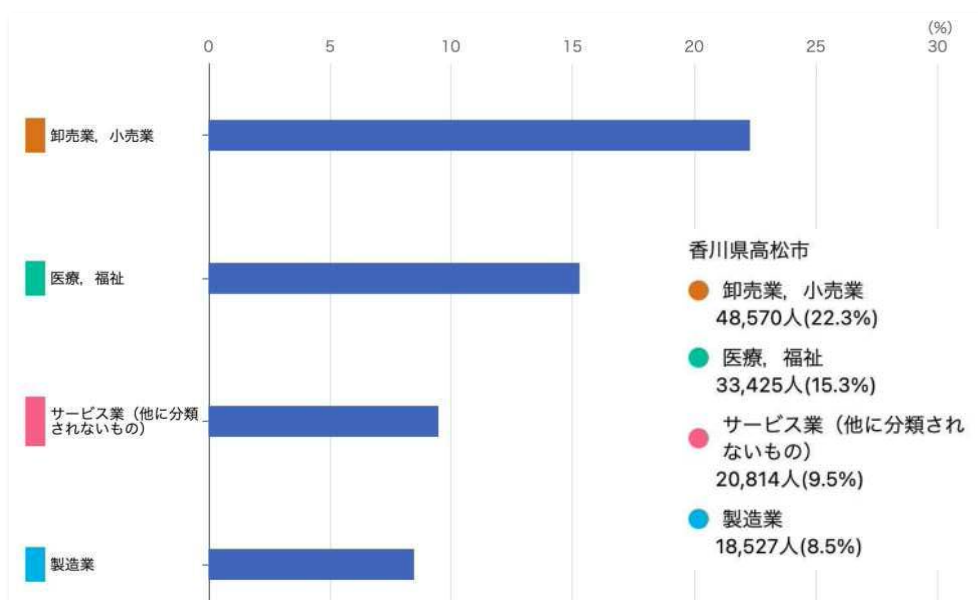
* 産業構造マップ→全産業→事業所数

産業構造 < 従業者数 >

- 業種ごとの従業者数を示したグラフをみる。
もっとも多いのは「卸売業，小売業」の48,570人で、全体22.3%を占めている。
その後「医療，福祉」の33,425人の15.3%、「サービス業（他に分類されないもの）」の20,814人の9.5%が続く。
- 従業者数の推移を示したグラフをみる。
2021年は218,022人、9年前の2012年の204,121人と比較すると6.8%増である。

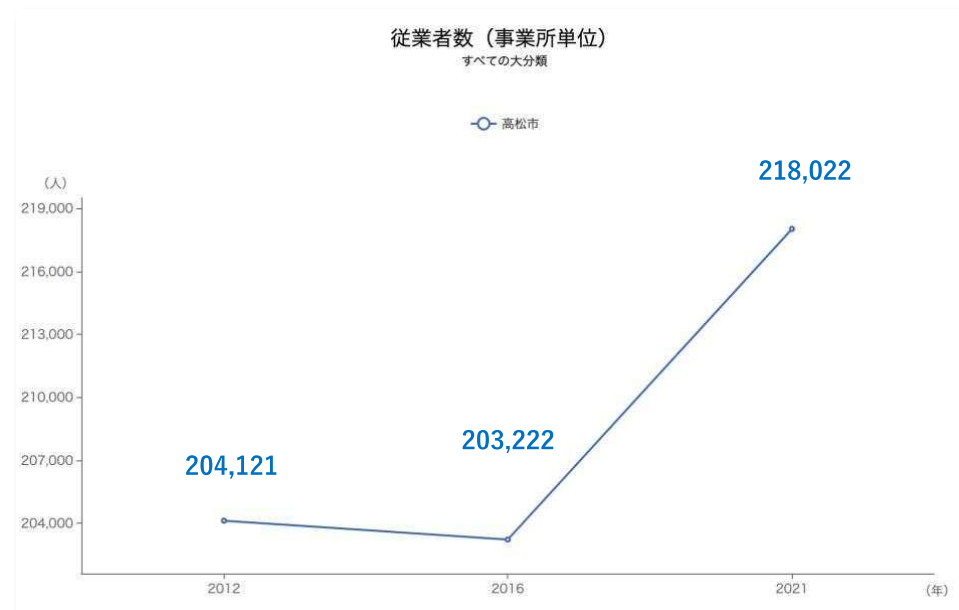
従業者数（2021年）

従業者数（事業所単位）：218,022人



* 産業構造マップ→全産業→全産業の構造

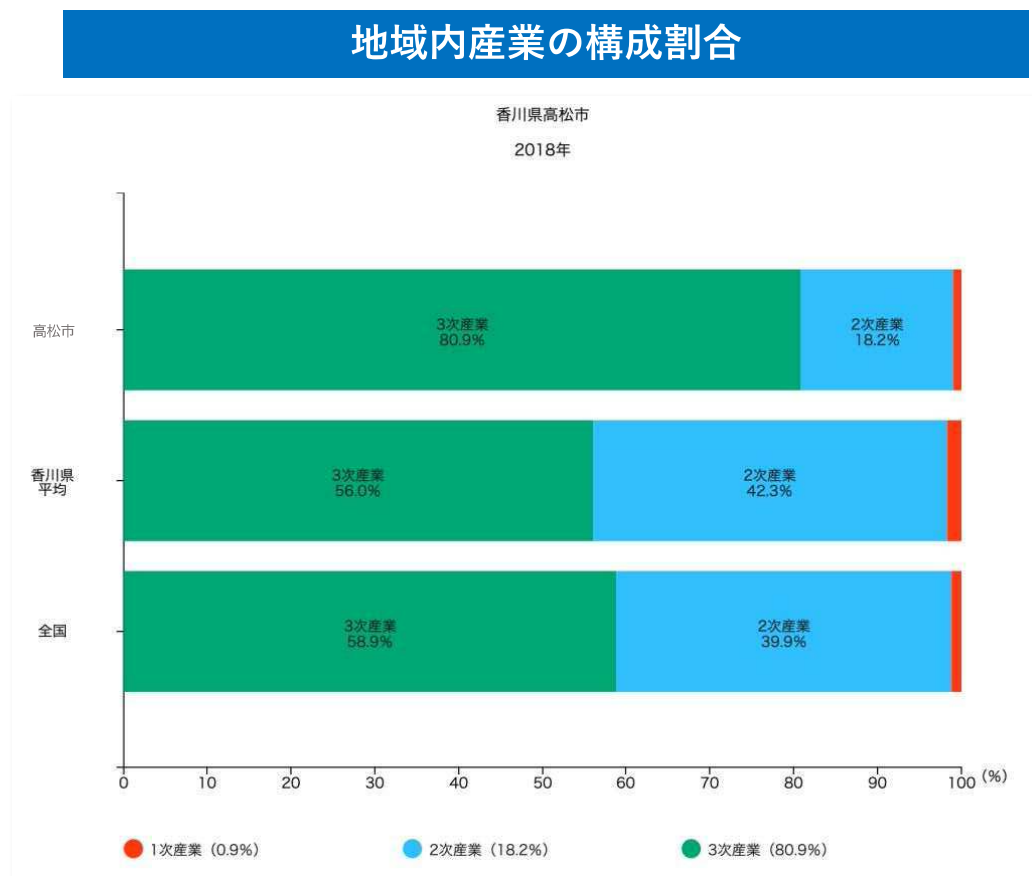
従業者数の推移



* 産業構造マップ→全産業→従業者数（事業所単位）

産業構造 < 地域内産業の構成割合 >

- 高松市の産業の構成割合を全国および香川県と比較したグラフである。
3次産業の割合が80.9%であり、全国の58.9%、香川県の56.0%と比べて高い。
一方、2次産業の割合は18.2%で、全国の39.9%、香川県の42.3%と比べると低い。



* 地域経済循環マップ→生産分析

* 1次産業・・・農業、林業、漁業など

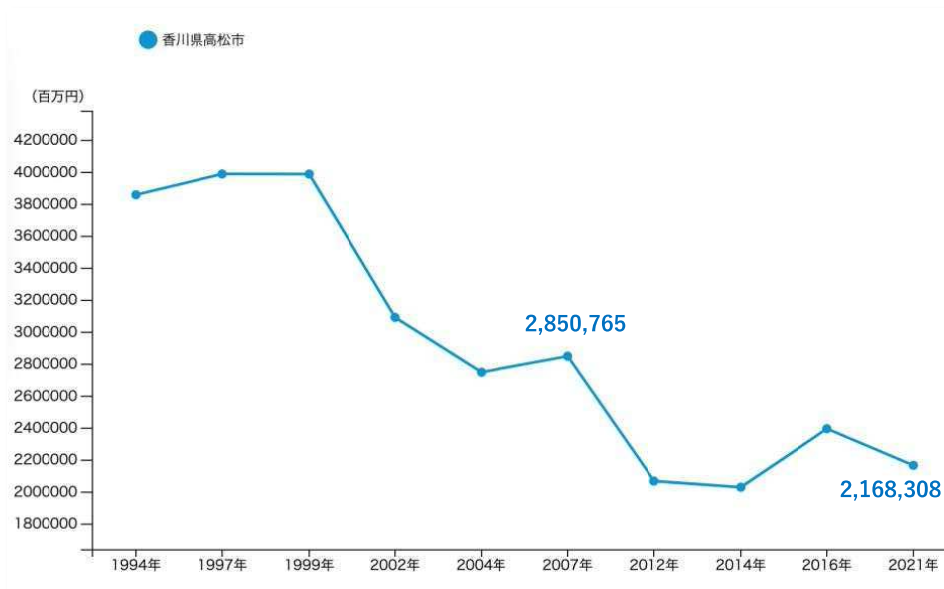
* 2次産業・・・製造業、建設業、工業など

* 3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業

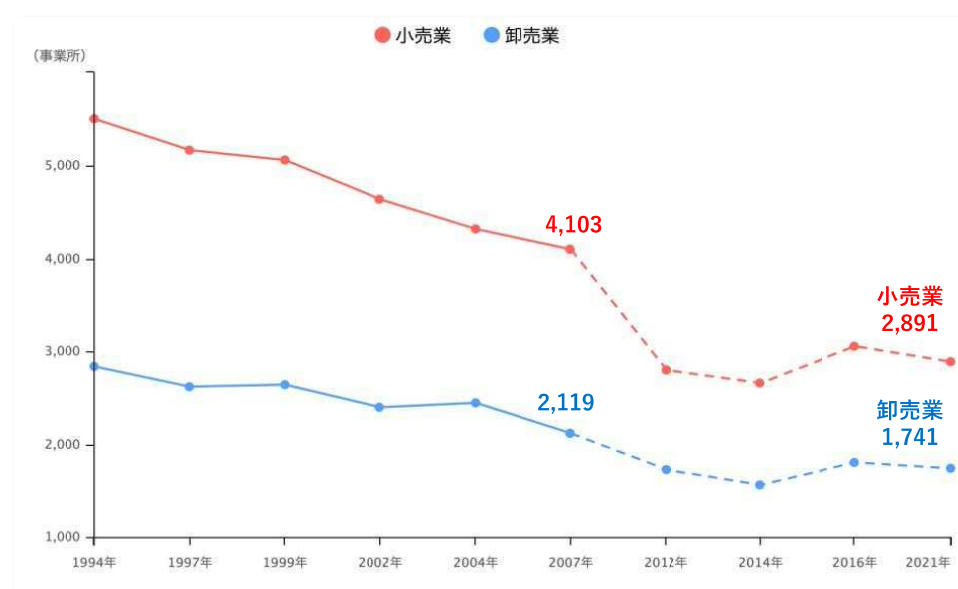
- 小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフをみる。
2021年の年間商品販売額は2,168,308百万円である。
14年前の2007年と比較すると2,850,765百万円なので、23.9%減である。
- 小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフをみる。
2021年の事業所数は、小売業2,891事業所、卸売業1,741事業所である。2007年と比較すると、小売業は29.5%減、卸売業も17.8%減となっている。

年間商品販売額の推移



* 産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

事業所数(小売業・卸売業)の推移



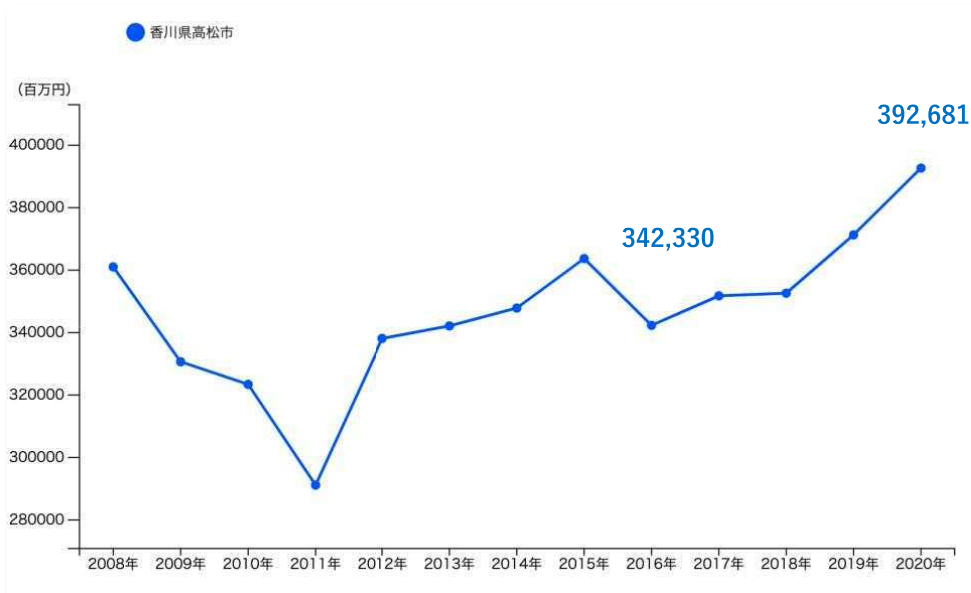
* 産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

* グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

製造業

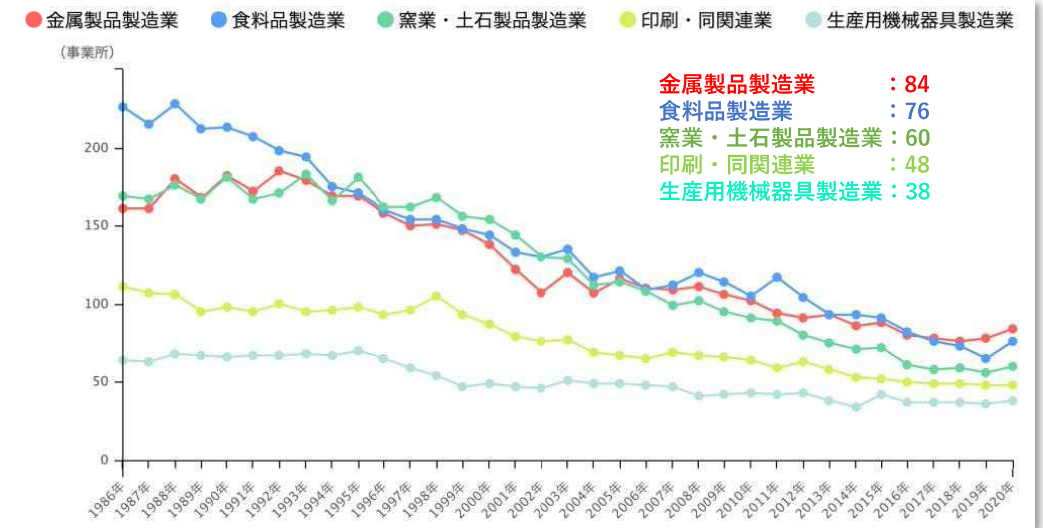
- 製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフをみる。
2020年製造品出荷額等は、392,681百万円である。
4年前の2016年と比較すると14.7%増である。
- 主要製造業の事業所数の推移を示したグラフをみる。
①金属製品製造業②食料品製造業③窯業・土石製品製造業が多い。
2011年以降、主要製造業が全て減少傾向であったが、2020年では④印刷・同関連業以外増加した。

製造品出荷額等の推移



* 産業構造マップ → 製造業 → 製造品出荷額等

事業所数（主要製造業）の推移



* 産業構造マップ → 製造業 → 製造業の構造

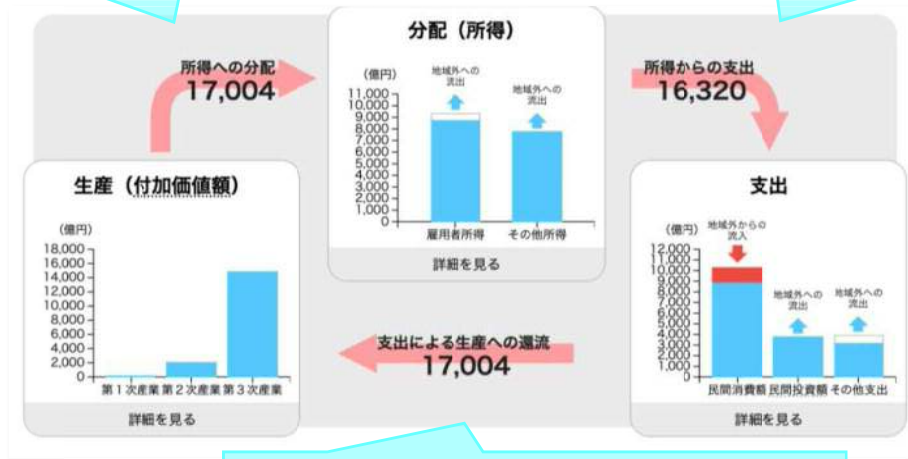
地域経済循環

- 地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。
- 左図の「生産（付加価値額）」の内訳を面の大きさで示したグラフである。付加価値額が高いのは「保健衛生・社会事業」「住宅賃貸業」「専門・科学技術・業務支援サービス業」である。
※なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業（赤色）と地域外から必要としているものを調達している産業（青色）を表している。

地域経済循環図（2018年）

①高松市の企業は合計17,004億円の付加価値を生み出している。

②付加価値のうち、支出に回されるのは、16,320億円。

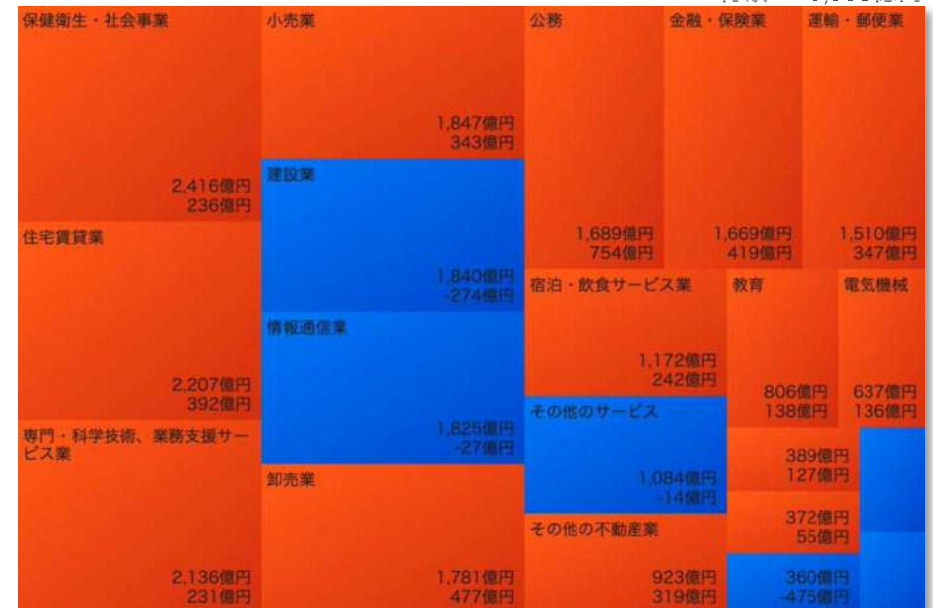


③市内で支出に使われた金額は17,004億円。市外からの流入があるので16,320億円より多い。

* 地域経済循環マップ→地域経済循環図

生産分析（2018年）

総額：26,953億円



上図以外の付加価値額の合算：1,688億円

* 地域経済循環マップ→生産分析

雇用

- 高松市の求人情報数の推移（事業所単位：前年同月比）を示したグラフをみる。
2024年3月は、前年同月比-1.39%と求人情報が低下している。1年前の2023年3月は、前年同月比25.09%である。
ここ1年の推移をみると減少傾向にある。
- 香川県の一人当たりの賃金を全国平均と比較したグラフをみる。
2023年の香川県は411万円であり、全国平均の473万円と比べて低い。
3年前の2020年の香川県は416万円、こちらも全国平均の460万円を下回っている。
一人当たり賃金の全国順位は30位である。

求人情報数の推移（前年同月比）



* 産業構造マップ→雇用→求人情報の比較

一人当たり賃金



* 産業構造マップ→雇用→一人当たり賃金